

# 令和3年度がん教育総合支援事業 がん教育推進校実践報告

## 北海道松前高等学校

学級数：3学級 生徒数：64人

### 【実践テーマ】

「がん」についての授業や講話等における主体的な活動を通して、正しい知識を学び、自己の生活習慣を見直し、生涯にわたる健康の保持増進に向けた意識と態度を育成する。

### 授業実践

- 対象学年：第1・2学年
- 教科等：保健体育 科目「保健」

- 教師作成のスライドでがんについて学習。
- 松前町で行われているがん対策について調査し、自分でできるがん対策について考察。
- iPadのアプリ（Canva）を活用し、生徒一人一人が、自分なりのキャッチコピーを考え、がん予防啓発ポスターを作成。



### 外部講師との連携

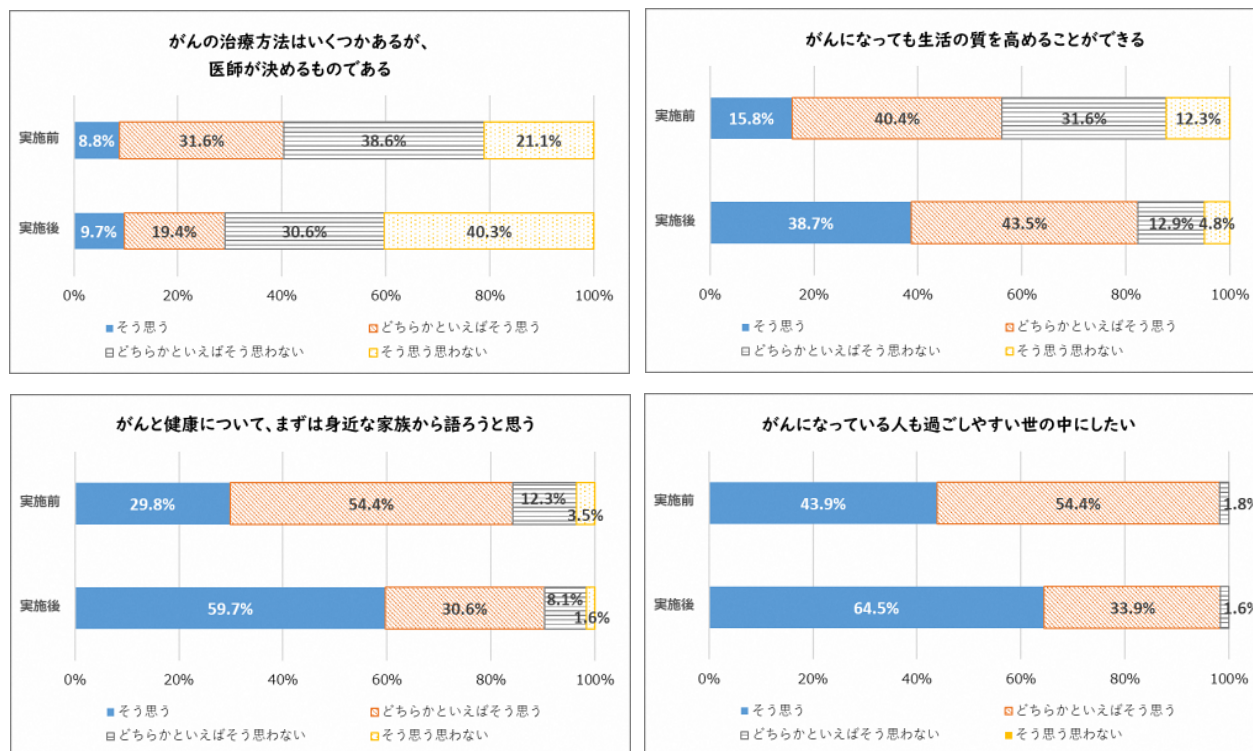
- 対象学年：全学年
- 教科等：保健体育 科目「保健」
- 講師：市立函館病院がん相談支援センター 渡邊 貴代 氏

- オンラインによる講話  
異学年で16のグループを構成し、意見交流後に、グループ発表。



## 成果と課題

### ○ 生徒のアンケート結果



#### 《成果》

- 外部講師による講話後のワークシートの結果から、将来がんにならないために自分自身の生活習慣を見直したいことや、将来たばこを吸わないようにしたいとの記載が多くみられ、生涯における健康の保持増進のための意識の高まりが、がんの予防に向けた生活習慣の改善や、社会全体での取組の重要性について理解が深まった。
- 生徒は、がんについて正しい知識を学ぶことにより、健康的な生活習慣が、いかに大切かを改めて認識していた。
- 高校生にとって「がん」は、数十年先の健康課題と捉えがちであるため、学習意欲を懸念したが、学習後、複数の生徒が「今からの生活習慣の見直しが大切である」や、「家族にも学んだことを伝えて、がんの予防につながる生活を実践していく」などとワークシートに記載していたことから、実践における目標は、ほぼ達成されたと思われる。

#### 《課題》

- 外部講師による講話では、科目「保健」において事前に学んでいる内容について、詳しく説明があり、限られた時間で充実した学習にするためには、講師との事前の打合せが大切であることから、講話の内容や学校での学習内容についても、打合せを行うことが必要である。
- 外部講師による講話は、全校生徒を対象としていたことから、講師の来校による対面形式での講話を希望したが、コロナ禍によりかなわなかった。オンライン形式による講話を実施する場合には、学校における通信環境などの整備が必要である。